

2023年度同志社大学大学院司法研究科
前期日程入学試験問題解説
小論文

第1問（配点：30点）

本問は、課題文1について、文章の読解能力と、読み取った内容を問いに則して要約し、表現する能力を試している。

採点に際しては、以下の点を中心に評価した。

- ・リモートワークができる仕事とそうでない仕事の格差と、住居の広さなどのリモートワーク環境の格差の二つの格差が課題文1に書かれていることが読み取れているか
- ・適切な要約がなされているか
- ・文章表現能力

解答例→コロナ禍で外出や人との接触が制限されるようになったため、リモートワークが可能な仕事についている人とそうでない人との間で、通勤時間がなくて済むなどリモートワークのメリットを生かして自由に仕事ができるようになった人と、仕事ができなくなり収入が不安定になる人との格差が生じた。また、以前は、授業を受けたり仕事に行っている間は平等な環境であったが、リモート普及により、家が狭い場合には、常に家族といることでのストレスや、家族のオンライン会議などの時間がぶつかってうるさいなどの不都合や不足が生じ、授業中や仕事にも住居の格差が顕在化した。（265字）

第2問（配点：40点）

本問は、課題文1と2を併せて読み、問いに即した解答を、課題文1と2の双方からバランスよく導出する読解力と、表現能力を試している。

採点に関しては、以下の点を中心に評価した。

- ・第1問と第2問の問いが異なったものであることを理解できているかどうか
- ・指定された字数内で、多様な就労上の弊害があることが書かれているか
- ・どのような弊害であるかが理解できるような文章になっているか

解答例→仕事の評価が「目に見える成果」に偏り、職場での人間関係を良好にするような「目に見えない貢献」をしていた社員が以前のように評価されなくなった。職場と家との区別が曖昧になったため長時間労働や、逆に仕事をしない問題もあり、それを避けるための遠隔監視は、就労上のストレス増大につながる。また、実際の対面がないため

にお互いの考えていることが空気で伝わらず、コミュニケーションにおいて誤解が生じる可能性が増えている。そのためリモートハラスメントといわれる新たなパワハラも生じている。新入社員にとっては、研修がオンラインとなり、実際の仕事のイメージがつかみにくくなった。また、新入社員は、オンラインのコミュニケーションでは、初めての職場で上司や先輩との間合いをつかみにくいことで悩む場合もある。(340字)

第3問 (配点：30点)

本問は、課題文1と2を通して読み、自身の見解を整理し、書き表す思考力と表現力を試している。

採点に関しては、以下の点を中心に評価した。

- ・問いで要求されている「リモートワークの利点」に言及されているか
- ・「あなたの考え」が、リモートワークが広がっていくことに対して肯定的か否定的かは評価に影響しないが、なぜ肯定的、あるいは否定的であるかの理由が書かれているか、また、その理由と結論が論理的にかみあっているか
- ・この点では肯定的であり、この点では否定的であるという書き方でも、それぞれに理由付けが適切になされているか